



世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

〔創立〕1964年3月2日 〔例会日〕毎・金曜日12時30分 〔例会場〕オークラ千葉ホテル
〔会長〕伊藤 和夫 〔幹事〕石井 慎一 〔会報委員長〕廻 辰一郎
〔事務局〕〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2015-2016年度

第2521回



平成27年11月27日(金) 点鐘12:30 《晴れ》

- *ロータリーソング『それでこそロータリー』
- *四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

*** お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー
プロスリング ZERO1 代表 大谷 晋二郎様
- リングアナウンサー 沖田 佳也様
- 千葉西ロータリークラブ 内貴 洲平様 今野 文明様
- ひかり学園 園長 武藤 直樹様

*** 会長挨拶及び報告 伊藤 和夫会長

◇11月20日(金)の例会は、櫻木ガバナー公式訪問でした。例会終了後にクラブ協議会が行われましたが、五大奉仕委員長他会員の皆様の大勢のご参加をいただき、活発な意見交換が出来ました。有難うございました。お陰様で、活発で熱心なクラブだとお褒めの言葉を頂戴しました。

◇11月22日(日)、社会奉仕委員会副委員長とともに多古町のいきいきフェスタ TAKO のバザー会場へ行ってきました。バザーへご提供いただいた皆様、有難うございました。自然薯を買ってきてホテルの方をお願いして摺っていただきました。粘り強い自然薯を召し上がって下さい。

◇11月23日(月)、斎藤会員のお声掛けがありまして、新蕎麦打ちに行ってきました。孫を連れて行ったのですが沢山食べていました。

◇地区より、台風18号による洪水被害への義捐金協力へのお礼が届いております。地区内82クラブから、1,994,313 円の寄付があり、「鬼怒川水害義捐金口座」と最も被害の大きかった地域の「水海道ロータリークラブ」へ100万円ずつ送金したとのこと。

◇地区の青少年奉仕委員会、ローターアクト委員会、奉仕プロジェクト委員会、ローターアクトクラブから、皆さんが書き損じたハガキでタイの子どもたちに奨学金を贈るという事業の協力依頼がきております。

書き損じハガキ400枚で、子供1人の1年間分の奨学金が出来るということです。(期限は2016年1月31日)

出井委員長、金親委員長のもと、皆様のご協力、宜しくお願い致します。

*** 委員会報告

社会奉仕委員会より (酒井 秀大副委員長)

•ひかり学園より、野菜を購入された方は、お持ち帰りのほど、宜しくお願い致します。

(※野菜、米、自然薯の総売上⇒ 265,400円)

•バザーへのご協力、有難うございました。飛ぶように売れておりましたので、来年も宜しくお願い致します。

第39回ライラセミナー参加報告 (瀧川 誠会員)

11月14日(土)・15日(日)に1泊2日で、船橋市立一宮自然の家で開催されたライラセミナーへ参加してまいりました。当クラブから、私と当社の女性新入社員の3名で行ってまいりました。開講式の前に伊藤会長と三神会員に駆けつけていただきました。本当に有難うございました。

櫻木ガバナーの「リーダーシップとは何か」、「チームワークとは何か」というお言葉で開講式が始まり、雨の中のウォークラリーでした。青少年が62名、ロータリアンが20名、スタッフの方を含め、合計120名の方が参加しました。私自身、とても良い体験をさせていただき、また、地域を超えての交流が出来ましたことに感謝致します。

有難うございました。

*** 幹事報告 石井 慎一幹事

◇来週12月4日(金)の例会の中で、年次総会を行いますので、宜しくお願い致します。

◇習志野中央RC、創立30周年開催のご案内

日時⇒ 2016年2月13日(土)13:30～

会場⇒ ホテルニューオータニ幕張

登録料⇒ 12,000円

(参加ご希望の方は、事務局まで)

本日の卓話

*** ニコニコボックス報告

《伊藤 和夫会長・石井 慎一幹事》

プロレスリング ZERO 1(ゼロワン)代表・大谷晋二郎様、リングアナウンサーの沖田佳也様、本日はようこそおいで下さいました。

大谷様におかれましては、『いじめ撲滅について』の卓話をどうぞよろしくお願い致します。

千葉西ロータリークラブの内貴洲平様、今野文明様、ようこそお越し下さいました。オークラホテルの美味しいランチと、大谷様の卓話で、どうぞごゆっくりお過ごしください。

《五十嵐博章会員》

大谷晋二郎様、沖田佳也様、千葉西RC・内貴様、今野様、ひかり学園・武藤様、ようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりお過ごしください。

大谷様、卓話を宜しくお願い致します。

《早野 友宏様》

波奈のおせち料理のパンフレットとお歳暮ギフトのパンフレットをメールボックスに入れさせていただきました。

食事券が少々入っておりますので、是非ご利用いただければ幸いです。

本日のニコニコボックス	7,000	累計	158,000 円
金の箱	0 円	累計	11,493 円

*** 出席報告 (会員数52名)

出席者数34	欠席者数18	ビジター 4	修正出席率 80.77%
--------	--------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	12/14・12/28	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	12/22・12/29	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	12/22・12/29	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	12/9・12/16	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	12/17・12/31	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	12/10・12/24	京成ホテルミラマーレ

第2522回例会

日時⇒ 平成27年12月4日(金) 点鐘12:30

卓話演題⇒ 『未定』

卓話者⇒ 劉 亜斌会員

第2523回例会

日時⇒ 平成27年12月11日(金) 点鐘12:30

卓話演題⇒ 『未定』

卓話者⇒ 国立大学法人千葉大学 ESD
コーディネーター 永井 篤子様

演 題⇒ 「いじめ撲滅について」

卓話者⇒ プロレスリング ZERO1
代表 大谷 晋二郎様



みなさん、こんにちは！

非常に緊張しております。先ほどこの会場に着いてガチガチに緊張している僕に、伊藤会長から、「緊張しています。どんなお話したらよろしいでしょうか？」と言うと、「何でもいいよ」と、そのような温かいお言葉をいただきました。

最近、僕だけではなく、ZERO1というプロレス団体が取り組んでいる、「いじめ撲滅」というスローガンを掲げてプロレスをやっているのですが、少し説明させていただきたいと思います。

まず、プロレスというスポーツをあまり観たことない方がおられると思います。その方は、プロレスでいじめ撲滅・・・なんか、はてな？が出てきませんか。

プロレスというスポーツは、時には相手を殴ったり、蹴ったり、叩きつけたりします。そんなプロレスで、いじめ撲滅とは、どういうことだろうかということを全国の小学校、中学校、高校を回らせていただき、講演とともにプロレスをさせていただいていますが、大体その学校のご父兄の方、学校の教員の方から必ずご意見が出ます。

プロレスでいじめ撲滅ってどういうこと？と言われるんですね。僕はとりあえず見てもらえればわかります、ということをお話します。

プロレスというスポーツは、相手の技を受け止めるわけですね。相手の攻撃から逃げない。いや、ときには逃げるとは思いますよ。これをくらったら負けてしまうというときは当然逃げることはありますけれども、相手の攻撃を受けきってなかつ、やられても何度でも立ち上がる姿を見せて、それで勝ちを目指す、これがプロレスなんですね。このプロレスから、今の子供達へ伝えるメッセージがたくさんあると、僕はそう信じているんです。このプロレスを通して子供達へ伝えたいこと、ありきたりな言葉ではありますが、「夢を持ちましょう」ですね。それと、「感謝の気持ちを忘れない」。この二つをプロレスを通して子供達へメッセージを送っているのです。

講演の際に、この「夢を持ちましょう」の話をしたときに、僕の夢はプロレスラーでした。このプロレスラーになりたいという夢は、実は小学校2年生のときだったんですね。みなさんご存知のアントニオ猪木さんが、まだまだ全然若くて、全盛期で活躍されている時です。聞いたことないですかね？スタンハンセンという大きな外国人選手。この選手がまだ粗削りの若手で、でも大きな体でアントニオ猪木と戦っている時、僕ははじめてテレビで見たんです。初めてそこでプロレスを見て、初めて猪木さんを見た

んですけど、大きな外国人選手と比べると小さいですよ。小さな日本人が、大きな外国人に立ち向かっている姿を見て、僕はときめいたんです。初めて見たその映像で、僕はこれをやるんだ、プロレスをやるんだ、と小学校2年生のときに思ったんです。それから僕の頭の中はプロレス一色ですね。今の子供達、もしかしたら将来の目標とか、夢とか出会ってない事たくさんあると思うんです。そんな夢に僕は小学校2年生のときに出会えたんです。そのときの僕は幸せだと思います。そして、小学校2年生で出会ったアントニオ猪木さん、その憧れの人と僕ははじめて顔を合わせたことがあったんです。

先ほど紹介していただきましたように、僕の地元は山口県です。山口県に年に2回、猪木さんのプロレス団体「新日本プロレス」が巡業に来てたんです。そのとき僕はおっかけをやっていました。プロレスラーが泊まるホテルをあらゆる手段を使って探し求め、そしてそのホテルの前を張るんですね。今では下手したら犯罪になるんじゃないかということをやってたんですけども……。そしてホテルを見つけ出しました。その当時は、プロレスはゴールデンタイムでやってたんですね。やはり、僕と同じような気持ちの人がたくさんいたんですね。そのホテルの前にはたくさんのファンが山のようにいました。ホテルのロビーがガラス張りで見えるんですね、そのホテルの外にはたくさんのファンがいます。子供達があります。そんな中に僕もいました。そして子供達はレスラーや関係者達がウロウロするのをうおーうおー言いながら見てる。すると、しばらくすると、エレベーターから憧れのアントニオ猪木さんが姿を見せたんですね。その瞬間ホテルの外は大猪木コールがわきおこる。猪木コールがわきおこり、僕ははじめて目の前で遭遇したアントニオ猪木さんを見て、自然と僕の足がホテルのほうへ入って行ったんですね。しかし、ホテル側もその状況を見こして、ホテル入口に大きなガードマンが現れたんですね。でもそれには目もくれず僕は入って行きました。しかし、当然そのガードの方が僕の両脇を抱きかかえまして、サイドから僕は持ち上げられたんです。小学生、中学生ですよ、持ち上げられて、僕はこしかなと思ったんですね。猪木さんはフロントにおられました、そして僕はガードマンに両脇をかかえられながら、宙に浮いているイメージ、その状態で猪木さんに向かって大きな声で呼んだんです。「猪木さーん、猪木さーん」。すると猪木さんはパッとこっちを向いて、今でも忘れません。にやっと笑われたんですね。そして猪木さんは一言、僕をかかえているガードマンに向かって、「いいから放してやってくれ」と言ったんです。もう1回言いますよ、「いいから放してやってくれ」。するとガードマンも天下の猪木さんですから、「はいっ！」と言って僕の手を放します。すると猪木さんは僕にこう言ったんです。「こっちへ来い」。緊張して僕は近づきました、目の前に猪木さんが立っているんですね、その猪木さんに向かって僕はもう何も言えない、ただ直立のままなんです。すると猪木さんが僕に向かってこう言ったんですよ。「おい、何の用だ」と言ったんですね。考えてくださいみなさん、追っかけが多くいるんですよ。どんな格好、闘魂ハチマキ、猪木さんの赤い闘魂とある、そしてのぼり

まで持ってるんですよ。そんな格好の僕を見て、何の用だはないでしょう。ファンだったら当然サインもほしいでしょうし、握手もしてほしい、それなのに猪木さんは何の用だと言ったんです。僕がなにも言えず緊張していると、「おまえさんさっき呼んだじゃねえか」。たしかに呼んだんですよ、2回呼んだんです。猪木さーんって。猪木さんは、それに対する返事が欲しかったということなんですよ。どうも猪木さんも、ある意味ファンサービスで子供に対して言ってくれてる、そんな感じなんですよ。猪木さんはニコッとしてですね、「それじゃあ、サイン、するか」って言われたんで、サインをいただいたんです。タオルにね。タオルにサインいただいて、僕はこしかないうって思って、やっと言葉を發せました。僕プロレスラーになります、新日本プロレスに入ります。よろしくお願ひします。」こう言ったんです。すると猪木さんはまたにやっと笑って、僕にこう言ったんです。「待ってるぞ」って言ったんですね。これで僕のなかで決定なんですよ。次の日、友達に学校で自慢してまわりました。「俺、プロレスラーになる！」言ってまわったんですね。僕は毎日言うてましたから、「プロレス好きで、プロになる」と。みんな友達は、「うん、いつも言ってるじゃないか、わかった、わかった」こう言うわけですね。しかし、「ちょっと待ってくれみんな」と。教室の壇上に立ったんです。こういう風に。「状況は変わってきたんだ、俺は昨日猪木さんと会談を持った」とこう言ったんですね。あの、当時話は盛り上がってますよ。会談を持った、その際猪木さんからおまえが欲しいと言われたんだと。ある意味猪木さんにスカウトされたんだ、こう言ったんでやっぱり、田舎の同級生たちは「ほんとかよ、ほんとかよ」となるわけです。確かに話は大きくなったんですけど、僕のなかでは、猪木さんは待ってるぞと言ったんですから。でもこれは子供ながらにわかってるんですよ、これはサービスで言ってくれたと。でも僕はそれを本当だと思ったかったんですね。そういう思いでプロレスに対する思いはずっと強くなるんです。そして小学校、中学校、で高校で、紹介していただきましたが、アマチュアのレスリングをやるんですね。でもやはり日本一にはなれず、スカウトは来ませんでしたプロレス界から。それを狙ってはいたんですけど。そして高校を卒業して、山口から東京に上京したんですね、しかしやはり僕の両親はプロレスに大反対だったんですね。やはり大学へ行ってまっとうな社会人になってもらいたいというのが、うちの親の気持ちでした。そんな親はですね、母親はもう大反対です。母親に、晋二郎がプロレスラーになるといつて東京へ行くなら親子の縁をきる、こう言われたんです。親子の縁切れちゃ困るなと思ひながらも、反対ではあったんですが、父親は実はプロレスが大好きなんですよ。これはまず父親を説得するしかない、で父親の職場を訪ねまして、父親は個人で英語塾を営んでまして、職場は一人なんですよ。僕は職場を訪ねまして父親に向かって生まれてはじめて敬語を使ったんですね。父親を前に土下座をしました。膝をついてですね、「父さん、プロレスラーになるために東京へ行かせてください。今東京に行かないと、僕は一生後悔します。よろしくお願ひします。」と言って頭を下げたんです。すると父親はし

ばらく沈黙のあと、パッと顔をあげて、僕にむかって「何を言っても聞かないだろ」。こう言われたんです。「わかったよ、母さんは俺が説得してやるから。でも、3年間だけだぞ猶予は。」。3年間だけなら好きな事して来いと言われたんですね、3年間のうちにプロレスラーになれなかったら黙って山口に戻ってこいと言われたんです。

そして山口に戻ってきて、後々話を聞いたら、そこから専門学校へ行かせてまっとうな社会人にさせようと思ってたみたいです。そして3年間猶予をもらった僕は東京へ出てきました。出てくるときにお年玉とかで集めてた5、6万円しかなかったんです、そして東京へ出てきて3日間くらいでしたかね、宿なしの生活を送ってたんです。一晩中あんまり暗くない大きな通りの歩道とかをずっと歩いて、縁石みたいなところに座ってカバンを抱えて寝てたんです。よく警察に捕まらなかったなと思うんですが、そういう安いアパートを見つけ、仕事を見つけ、約1年間東京でフリーター生活を送るわけです。そのフリーター生活のあいだに、僕は練習場所をさがすために、先ほども紹介していただきましたアニマル浜口さんという今娘さんが京子ちゃんって言って活躍している、アニマル浜口さんが経営されているジムに僕は訪ねたんです。アニマル浜口さんに教えを乞いたいと行ったんです。訪ねたときに浜口さんはおられなかったんです。おられなくて、そのインストラクターの方に浜口さんにお会いしたいんですと話したら、浜口さんに電話をしてくださって、そして浜口さんは今来るからちょっと待っててくださいと言われたんです。15分くらいすると、汗だくの浜口さんが浜口ジムに入って来たんです。テレビとかで浜口さんを見ると、「気合いだ、気合いだ、燃えろー」といつも吠えてるじゃないですか。普段からあのままなんです。あの方、いきなり入ってきてですね、トレーニングされてる方に、元気ですかー！燃えてるかー！って叫ぶんですよ。ジムの会員の方も毎回のことなんでわかってるんでしょうね。燃えてまーす！って叫んでるんですよ。なんなんだこの空間はと思いながらも、浜口さんがあの分厚い体で僕のほうへ来られて、「君の話は聞いた、こっちへ来なさい」と奥の部屋へ連れて行かれたんです。奥の部屋、そんなに広くない部屋だったんです。「入りなさい。」。中にはテーブルと椅子2つ、対面においてあったんです。「椅子に座りなさい」と浜口さんに言われて、浜口さんが部屋の扉をばーんと閉めたのです。普通に閉めたとは思いますが、僕はびびってますから、監禁されたと思ったんです。あ、これはプロレスをなめている小僧を殺してやろうと、ああ死ぬんだなと思ったんです。そして僕の目の前に座った浜口さんが、僕にこう言ってくれたんです。「君の今までしてきたこと、今の状況、これから君がやりたいこと、全部話さない。」、こう言われたんです。要は、君の、僕の過去、現在、未来を話せと言われたんです。僕はもうびびってますから、言われたまま、昔からプロレスが好きで今は東京へ出てきて話をしたんです。そんな僕の話、浜口さんただ聞くだけでなんにも話さないんです。たまにこう相槌をうってくれる感じですね、あまりにも話さないの浜口さん怒ってるのかなと思ひまして話しかけたんです、「あの、すみません、

話させていただいてありがとうございました。」と言ったら浜口さんが初めて口を開いて、「嘘をつくんじゃない、まだ全部を話してないだろ君は。何時間かかってもいいから話さない。」こう言われたんです。天下のプロレスラーが、田舎から出てきたただのあんちゃんにですよ、マンツーマンで何時間かかってもいいから話さないって言うんです。そのあと僕はもう夢中でたぶん1時間以上話をしたと思うんです。でもずっと飽きた表情もせず、ずっと僕の顔を見ながら浜口会長は話を聞いて下さるんですね。そんな浜口さんを見て僕は最後感動してボロボロ泣きながら話をしたんです。それでも浜口さんはずっと聞いてて、やっと話し終えた時に浜口会長はこう言ってくれたんです。「どうだいすっかりしたろう、君は話を聞いて欲しかったんだよな誰かに。」と言われたんです。まったくの凶星だったんです。僕は、東京へ1人で出てきて、友達もいないですし、頼る人も誰もいなかったんです。そんな僕を見透かして浜口会長はそういう言葉をかけてくれて、「よし、君の眼が気に入った。明日から毎日ジムに通え。けいこをつけてやる。」こう言われたんです。それから約1年間、浜口さんに教えを乞いながらプロレスラーを目指したわけです。そして夢であった、憧れだった新日本プロレスに入門できるんです。それが92年でした。92年に入門しましてそれから約10年、新日本プロレスにいたんですが、そしてもう亡くなられてしまったんですが、橋本真也さんという有名な強いプロレスラーの方がおられました。橋本真也さんが新日本プロレスを出る、そして出て ZERO1という団体を作る、そのときに僕は橋本さんを慕って一緒に新日本プロレスを辞めたんです。そして ZERO1を立ち上げました。それが2001年でした。2001年、僕はいろんな人に言われたんです。新日本プロレスというのはプロレス界のなかでも最大の会社なんですよ、もうみんなが目標にする団体なんです。「新日本プロレスを辞めるのもったいないよ。」「どうして ZERO1に行くんだ。」と言われたんですが、僕はその橋本真也さんという人に「この人と一緒にやりたい」と ZERO1の旗揚げに参加したんです。2003年の後半、いろいろトラブルがありまして、ZERO1を作った橋本さんが ZERO1を離れるというそういう状況に陥ってしまいました。それから一応僕が引き継ぐ形でやらせていただいているんですが、そんな時、良く言われるんですよ、「後悔してるでしょう、橋本真也についてってこうなって後悔してるでしょう」と、僕はこれっぽっちも後悔してないですよ。いろんな理由がありますが、その理由のひとつに、2003年に実は僕の母親が突然亡くなるという事故があったんです。交通事故だったんですけども。ある日突然、小さい軽に乗ってた母親がで、大型トラックと正面衝突して即死だったという話をです。2003年に僕は巡業で名古屋にいたんですけども、父親からの電話でそれを聞いて、もちろん最初は信じられませんでした。その日、名古屋から福島に移動して試合があって、そして、次の日に山口に帰って母親の顔を見たんですが、その後たまらない気持ちになりました。でもそれが、葬儀に橋本真也さんが東京から山口に駆けつけてくれたんです。そのとき橋本さんは足首を骨折されて、まともに歩けない状

況だったんです。しかし、葉杖をつきながら山口まで来てくれたんですね。そのあとに聞いた話では、「大谷のお母さんが亡くなったから俺は葬儀に、山口へ行く」。会社はみんな止めたらしいんです。こういう状況なんで、大谷選手もわかってくれるんで・・・と。「大谷のお母さんが亡くなって大谷が悲しんでるんだぞ。俺が行かないでどうすんだ」、この一言で、松葉杖で山口まで来て下さったんですね。僕はこれだけで十分なんです。それだけの思いを持ってくださった方について行った、だから後悔はないんですね。

母親の話になると、これはよく子供達の前でも言うんですが、先ほども言ったように、「感謝の気持ちを忘れない」。僕は、母親が亡くなる2003年の約1年位前かな、実は母親と連絡を絶ってたんですね。母親とある出来事がありまして。母親は気持ちが優しい人で、いろいろなものを背負う人だったんですね。そういってなかで、僕も出来るだけ手助けをしてたんですが、僕に心配をかけないために、母親が毎回嘘をつくようになったんです。何度言っても嘘をつく。すると僕は何度言っても嘘をつくから、ある日ちょっとお灸をすえる意味でですよ、母親に「もういい加減にしてくれ、いつもいつも嘘をついて。この疫病神！」と言ったんです。ひどくないですか、母親に対して疫病神って言ったんですよ。さすがに息子から疫病神と言われた母親は、もう息子に連絡することができなくなったみたいで、それから僕に電話をすることはなくなったんですね。

それで1年ちょっと経ったんです。そして父親からの電話で母さんは亡くなったと聞いたんです、2003年に。もう僕のなかは後悔しかない。僕と母さんの最後の言葉は疫病神ですよ、僕は一生償えない罪を背負ったと思ったんです。だから子供達に言うんです。「君たちにもお父さんお母さんはいるよね。一緒に生活するおじいちゃんおばあちゃんでもいいよ。君たちがどれだけ幸せか、今はわからないかも知れない。でも、僕みたいにならないでくれ。」と。反面教師の意味でですね、子供たちにいつもこの話をするんです。「僕はいま後悔してるんだ、母さんに対して優しくない悪い息子だったんだと。亡くなってから後悔している、君たちは僕みたいにならないでくれ。」、そういう気持ちでこの話をするんです。すると子供達は聞いてくれるんです。普段から、毎日、毎日、お父さんお母さんに向かって、ありがとう、ありがとうと言ったら気持ち悪がられるかも知れないですが、ときにはお父さんお母さんにも感謝の気持ちを伝えてあげてね！僕はこう子供に言うんです。こんな話をしていくなかで、お父さんお母さんへ対する感謝の気持ちを持って、なおかつ僕が言ったように、僕はプロレスだったけどなんでもいい、夢を持って、お父さんお母さんに感謝の気持ちを持って、そういう子はいじめをしないとすんませんよ。勝手な考えですけどね。こういったいじめ撲滅を、指導を子供たちにしてるんですね。僕は君たちに、「いじめはダメだぞ」とか、「いじめはやめなさい」、こんなことは一言も言わないからって言うんですよ。すると子供たちは耳を傾けるんですね、え、なにを言おうとしているんだこのおじさん、と。そして、今のような話をさせていただいて、感

謝の気持ちを忘れない、特にお父さんお母さんへだと。みんなのために一生懸命頑張っているお父さんやお母さんのために、何かできる、そんな誇りがあってほしい。感謝の気持ちを忘れない、そして、大きな夢、いや小さくてもいい、夢を持って生きていく人になってください。これが僕のいじめ撲滅スローガンに掲げて子供達に伝えているメッセージなんですね。こういった話をさせてもらった後に、その会場や学校側が許してくれればですね、プロレスを見せるんです。こういう話をしたあとですよ。すると子供たちは夢中になって応援してくれるんですね。今子供達に聞くと、約8割、下手したら9割の子供たちが生でプロレスを見たことがない子ばかりなんです。僕たちの時代からしたら考えられないかも知れないですけど、今の小、中学生はアントニオ猪木さんの名前を知っててもプロレスラーを知らない子ばかりなんです。ジャイアント馬場さんなんて誰も知らないですよ。でもそんな子供たちにプロレスを見せるんです。一生懸命戦う姿を見せる、これは、僕は子供と同時に一緒に集まっているお父さんお母さんとか大人のみなさんにもメッセージを送ってるんですね。僕が一生懸命な姿をプロレスを通して子供たちに見せます。だから皆様も、皆様それぞれのステージで、一生懸命な大人の姿を子供たちに見せようじゃありませんか。僕はそうやって言うんですね。一生懸命な大人の姿をみて、何も感じない子供はいない、僕はそう信じてます。そんな話をしながら、いつもプロレスをさせていただくと、子供たちがはじめて見たプロレスで、僕話をして親近感が出てきますから、僕がやられたり蹴られたり投げられたりしてると、リングに近づいてきて、泣きながら声援をくれる子がいっぱいいるんです。それを見て僕は、プロレスだからこそ伝えられるものがある、そう思うようになったんです。このいじめ撲滅は10年近く続けています。はじめこのスローガンをかかげたとき、10人中9人は相手にしてくれませんでした。「プロレスでいじめ撲滅ですか？あー・・・。」ってなるんですね。でも今となれば、テレビにも取り上げられた。そして今、約10年続けています。ある方はこう言ってくれました。「継続は力なりといいますが、まさに継続は信頼をうむんですね。」。たしかに10年続けてたら信頼を得るんだなあと思いました。

というわけでこの活動、僕はまだまだ続けていくつもりですし、勝手な思いですが、プロレスを必要としてくれる人はまだまだたくさんいる、僕はこう思います。

チャリティープロレス、これも皆さんのご協力を得て、千葉中央公園で年2回くらいやらせていただいています。是非みなさん一度見ていただければ、僕が言っていることをわかっているような気がします。

僕はこれからもプロレスの力を信じて、プロレスを必要としてくれる方はたくさんいる、これを信じて、いじめ撲滅チャリティープロレスを続けていきたいと思っています。

